

# Newsletter

## 🌿🌿 会長挨拶 🌿🌿

### 合言葉は「はい、喜んで！」



#### カウンスルNo.8 第29期会長 山口久美子

初夏の頃となりました。いかがお過ごしになっていらっしゃいますか。各クラブとも今期の仕上げに向けてお忙しい頃でしょうか。

私から皆様にご挨拶をするのはこの紙面で最後となりました。

ITC-Jは、教育訓練機関です。何事も「行うことで学ぶ」ということを二度目の会長職を担当させていただき心から実感しました。皆様方に大きく育ていただきましたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ITCの創設者アーネスティン・ホワイト女史は、「個人の成長は他人との関わりの中でしか得られない。」「自分と他人を切り離して成長を考えることはできない。」と私たちに伝えていきます。

世界がより良くなることを願い、自分が成長すれば周囲が変わり、世界もまたより良くなるという強いビジョンを持ち、お互いに関わりながら活動をする。これがITCの一番の願いであったと思います。この思いはITC-Jとなった今でも私たちに脈々と受け継がれています。

年々会員数が減ってきていますが、それはNo.8だけの問題ではありません。

少人数であってもカウンスル活動を元気に進めていくためには、役員、委員、担当クラブ等への負担をできるだけ少なくしながらも「行って学ぶ」機会は増やしたいと考えました。

準備委員会は従来の担当クラブ制ではなくて、全部のクラブに担当を割り当てることで、いつ誰がどんな担当になっても、すぐにスムーズな運営ができるようなシステム作りを考えました。

一人一人が会合に何らかの形で関わることで自己研鑽を積み自分自身を成長させることができます。活動報告書には、「大変だったけど勉強になった。」「こういう仕事があったと初めて知った。」というお声もありました。まさに「行って学ぶ」ということが実践できたと思えました。何かを頼まれた時に「はい喜んで！」という精神は、自己研鑽のためにある言葉であったと痛感しました。



1

他人と関わる

2

行って学ぶ

3

自己研鑽

どうぞ、皆様、これからも自分自身の成長ために、合言葉は「はい喜んで！」。

## ビジネス報告

横浜クラブ 饗場 嗣祈子

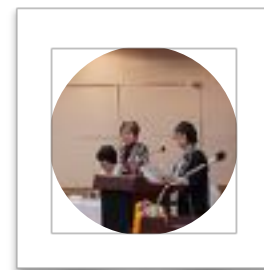
2019年4月13日、島根イン青山パインコートにて、第2回会合が11時から行われた。会場右側の白板に今期のテーマ「不易流行」が貼られ、元会員、中野洋子様、西村郷子様、寺西キヌ子様をスピーチコンテスト審査員にお迎え、45名の会員参加のもと、ITC-J宣誓（葦崎クラブ、畑山はるみ会員）で会合が始まった。元カウンスルNo.8第10期会長、松尾はるみ様のご冥福を祈り黙祷を捧げた後、山口会長の挨拶として「会員減少の中、誰でも役が務められるようなシステム作りを試みた」ことを会場に語りかけた。

ビジネスは滞りなく進行し、次期役員選挙とその結果の新役員紹介が行われた。

新役員は以下の通り：

会長          ：    佐野千賀子（東京）  
第一副会長：    烏谷まゆみ（葦崎）  
第二副会長：    饗場嗣祈子（横浜）  
書記          ：    山内昌子（東京）  
会計          ：    小林裕子（彩玉）

「一言メッセージ」を添えたカードを戴いた新役員は、あらためて自分達のお役に対する自覚を持ったことであろう。佐野千賀子次期会長のテーマは「小さい労力で、美しい花を咲かせて、その実を味わいましょう」であった。



## カウンスルNo.8スピーチコンテストに参加して

ATC 柏クラブ 中野洋子

ITC-Jが組織されて初めて、第2回会合にスピーチコンテスト審査員として参加させていただきました。会場は、協力的な雰囲気、懐かしい皆様方に迎えて頂き本当に嬉しかったです。コンテストでは、これまでにITCで培ったこと、それぞれのトレーニングでの経験が見事に生かされたスピーチを聞き、改めてITCトレーニングの素晴らしさを実感致しました。皆様、よく勉強され上手にまとめていらっしゃると思いました。また、プログラムリーダーの力強く、しっかりとした司会ぶりでコンテストは、成功裡に終了しました。担当の皆様がそれぞれの役目をしっかり果たしていて、コンテストに集中しやすい雰囲気でした。お役を引き受けたことで、良い学びの場を与えていただき、ありがとうございました。



## スピーチコンテストを終えて

スピーチコンテスト委員長 水野玲子



今期より「スピーチコンテスト規則と任務」を改訂し、公平性の観点から「スピーカー全員に同じ3つの論題を与える」に変更しました。しかしながら、年齢、環境、価値観が似た者同士？の会員間にあっては、共感を得られたとしても、スピーチが似かよるのではないかと懸念もあります。江戸時代のベストセラー「豆腐百珍」は、素材を一品に限定し、料理のバリエーションを愉しむ話です。豆腐はそんな素材にピッタリで、トマトや人参ではそうは行きません。論題も同じで、多様なスピーチの土台になるには、論題自体が色を持たないことと広がりが必要で、与える側のクラブスピーチコンテスト委員の力量が問われます。とは言え、論題が異なるカウンスルレベルでも、「年齢」が如何に大きなウェイトを占めているかを、今回実感しました。同年代、見ている世界は皆同じということでしょうか。

国際の解散に伴い、英語離れが進む中、ITC-J大会にNo.8から英語の出場者を出せたこと、会員減少にも拘らず、全クラブが参加し、実りあるコンテストを実施できたことに、委員一同心よりお礼申し上げます。

## 優勝者の声

### “スピーチで過去が蘇る”

この度、カウンスルのスピーチコンテストにおいて、優勝を頂き光栄に存じます。クラブのスピーチコンテストで「情」という論題を頂いた時、私には直ぐに浮かんできた光景がありました。それはオーストラリアのエアーズロックへ行った折、不注意にも右手首を骨折し、何もできなくなってしまった時、旅行の同行者の方たちが、親身になって私を助けてくれたことでした。その旅行は一人参加ツアーでしたから、その方たちはそこで初めて出会った人達だったことは、スピーチで述べた通りです。スピーチ原稿は一気に書き上げることができ、また、それを書きながらも、皆さんの顔が浮かび、言葉が蘇りました。今回のスピーチは、私が体験し、感動したことを、そのまま語りました。そのことが、この結果につながったのであれば嬉しいです。有難うございました。

(東京クラブ 島田富美子)



## コンテスト出場者に聞く

2019年4月13日13時からスピーチコンテストが日本語のスピーカー7名と英語のデモンストレーター1名で行われた。審査員としてお名前があった方々は皆懐かしい方々で、コンテスト後のお茶の時間で交流があり有意義であった。何らかの形でこのように再び参加下さる機会がもっとあることを望む。スピーカーはそれぞれ論題を内容によく反映させて素晴らしかった。前半は、予定通り進んだが、後半に移る前に審査集計が行われ、投票計算係が動くのが見えた。スピコンが終わったような印象の中で英語のデモンストレーションが始まったので少々違和感があった。多分当事者であったからだろう。例年の事だか担当者はよく承知の事だからというコミュニケーションの隙間があったのでは。

(横浜クラブ 川井 恵子)



盛岡クラブは会員が5名と少ないので、順番で出場者を決めています。今回は2度目でしたが、スピーチの内容を遂行する余裕が無く不完全なまま演壇に立ちました。案の定「棄権した方がまし」な状態でお恥ずかしい限りです。

(盛岡クラブ 柴田さよ子)



自分の思いを伝えるスピーチ、改めて難しさを実感しました。うれしいのは、後でいただく評価です。上手くまとまらない難しさ、自分では気づけない改善点への素晴らしいアドバイスが詰まっています。

(東葛クラブ 宮崎ひろ子)



67歳になって自分の人生や想いを多くの方の前で発表するなど初めての体験でした。勇気が要りました。

でも自分を振り返る良いきっかけになりました。他クラブの会員の方々の発表も何い、共感や興味の湧く内容に、次も是非聞きたいと思いました。私の拙い発表に評価をくださった評価者の方や私を送り出してくれた彩玉クラブの先輩、会場を設営してくださった方々に感謝が一杯です。ありがとうございました。

(彩玉クラブ 荻野節子)



聴衆の前で自分の伝えたいことを伝えることの難しさを身をもって学びました。視覚補材もボディーランゲージも上手く使えば効果的だが、下手に使うと逆効果ということがわかりました。

(横浜クラブ 饗場嗣祈子)



初めてのカウンセルでのコンテスト出場、クラブの代表からコンテストまでの時間、皆様の前でのスピーチ。経験が力になり勉強になる大切な時間をいただけたと感じました。

(韭崎クラブ 畑山はるみ)





実は今回カウンスルスピーチコンテストに初めて出場いたしました。この4～5年スピーチのテーマとして訴え続けてきた私の切実な題目でした。「私の愛おいしい歯... 今昔」87歳の近所のおばあちゃんとの会話は切実な問題でした。結果 3位入賞頂きまして感謝でございます。

(花巻クラブ 瀧成子)



## スピーチコンテスト評価



東京クラブ 関穂子

スピーチコンテストからひと月半たちましたが、みなさま憶えていらっしゃいますか？ 良いスピーチはいつまでも忘れられないものです。今回は高齢期のテーマに偏っていましたが、内容はバラエティーに富み夫々の人生の旅を生き生きと話され心に残りました。全体的に、導入はお上手ですが結びが弱かった。最後は疲れますが力を振り絞って一番言いたいことを強く訴えて結ぶことが大切です。なぜ大切かを考え工夫なさってください。優勝者のスピーチは、情景が目に見えるようで言葉の映像化に成功していました。人の情けという抽象的なことを巧みな人物・情景描写で具体化し共感と呼んだのはこのためでしょう。更に、良いスピーチには良いキーワードがあります。「一期一会」がそれでした。タイトルとうまくつながりスピーチに深みと余韻を残しました。スピコンでは出場者は勿論聴き手も緊張しますが、P.L.はにこやかに自然体でそれをほぐし良い雰囲気をかもし出していました。終始落ち着いて淡々と進め、出場者を引き立てるあっぱれな司会ぶりでした。残念なことは、演壇のマイクの不具合でスピーカーの声がかぐもり明瞭でなかったこと。もう1つは部屋の真ん中の柱で部屋が2分されたような感じだったこと。出場者もアイコンタクトに困られたように見受けました。少しユーモアに欠けましたが、作為のない温かみのある良いスピーチコンテストでした。願わくはもう少し若い方の異なる視点のスピーチが加わること。更に活気のあるスピコンを期待します。

## 🍀🍀クラブ便り🍀🍀

### 🍀東京クラブ🍀

山内 昌子



1月例会のプログラム「万葉集をたづねて」は、新しい年号「令和」の典拠となった「万葉集」についてのプログラムでした。ここ数年1月恒例となったパワーポイントを使用して、3部構成で行いました。最初に、リサーチスピーチ「万葉集」では、知っているようで知らない、幅広くて、奥深い日本最古の歌集についての豆知識を学びました。次に、会員が万葉集全約4,500首の中から事前に撰んだ一首をスクリーンに映して、「わたしの一首」と題して詠みあげ、それぞれ撰んだ理由を発表しました。プログラムリーダーが歌の背景等を軽妙洒脱な言葉を添え、プログラムが更に生き活きと楽しいものになりました。最後に、5人の発表者による「わたしの一首を語る」では、スクリーンに映し出された歌のイメージを、絵や音楽、お香等に想いを載せて語られました。その中には、新しい年号「令和」のもととなる「梅花の歌」の宴で詠まれた大伴旅人の歌も紹介されました。

### 🍀東葛クラブ🍀

石川 恵悟



3月例会において「これからの通貨のゆくえ」と題して、仮想通貨をテーマとした経済講座を開催しました。ヴァーチャルの世界をいかに分かりやすく伝えるかが課題だと考えていましたが、いざ始まってみますと、ある程度説明が進んだ時点から次から次へと質問が出され、非常にライブ感に溢れた講座になりました。つながりのある、内容の濃い質問ばかりで、それらにお答えすることにより、参加者の皆さんの理解が進

み、より大きな関心を持っていただくことができたのではないのでしょうか。また、日本国内では投資対象として見られることの多い仮想通貨ですが、発展途上国など金融システムが整っていない国・地域では、利便性に優れた支払い・送金システムとして開発が進められていることを示すことができました。なお18名のゲストのうち8名が元会員で、同窓会のような雰囲気が醸し出され、旧交を温める場にもなったことも強く印象に残りました。

## 🍀 蕪崎クラブ 🍀

畑山はるみ

蕪崎クラブは少人数クラブですが、会員のそれぞれがITC-Jの学びが好きで個性的な前向きの人たちの集まりです。クラブでは「お役をできない」の言葉は発せられません。しかしそれが個人を成長させています。



クラブのお役だけではなく、ITC-J・カウンスルのお役も受け活動しております。今年度、特に良かったと感じたプログラムは3月に行われた、「マダム的人生相談」と題され、PLが場末のバーのマダムになり客の相談にのり、会員が客とチーママ役をローテーションして演じ設定時間の中でマダムがアドバイスするという内容でしたが会員の扮するお客さんに会員の素を感じる部分があり、とても興味深く、周りの状況、時間を見ながらの進行にはITC-Jの学びが多いに役立つプログラムでした。少人数クラブですが今後他クラブへの参加を積極的に進め、クラブの魅力を磨けたら良いと感じております。



## 🍀 彩玉クラブ 🍀



小林裕子

今期テーマ「Smartで楽しく！」のもと、『楽しい』ことは、野外例会でデジタルアートを体感。お正月飾りを作り、新年は朗読発表会。また言葉遊びで柔らかかアタマをつくります。アンテナ高く、経験豊富な会員がいるお陰です『Smart』なことも忘れていません。ブックレビュー、リサーチスピーチ、5月にはパネルディスカッションも行いました。「日本の文化の重要性をいかに継承するか」華道、和服、茶道の立場から述べるパネリストは会員です。ゲストと共に考えました。皆さんはどのように、お考えになりますか？

彩玉クラブでは、今期ニューフェイスも加わり12名となりました。それぞれの持つ経験が、プログラムにも活かされています。

新しい風と懐深いベテランと向上心を持つ会員との例会は、様々な学びの場であると、実感しています。ぜひお越しください！

## 🍀 横浜クラブ 🍀

橋爪 明子

文明開化の窓口となった横浜は、戦後もまだ、東京よりハイカラなところでした。元町には、ファンシーなアメリカングッズに夢中な女の子たちや、若大将に憧れて、ヨットパーカーを求める男の子たちがたむろしていたもので、東京の若者たちの憧れの街だったのです。そのうち、東京がどんどんかっこよくなってきて、一時、横浜は歴史の街になっていましたが、ここ十年ほどで、再びクールな街に変貌しつつあります。そんな横浜の見どころ、山下公園のすぐ後ろで、港を眺めつつ、例会ができるのが横浜クラブ。メンバーは、みな、おおらかで好奇心旺盛。助け合いの精神と機動力の高さで少ない人数の会を回しています。おばさま方に加えて、娘より若い20代の女性と、若いけれど頼りになる男性を加えて、楽しく運営しています。心を癒されたい方々は、ぜひ横浜クラブを訪ねてください。





## 盛岡クラブ

小菅あけみ

少人数クラブなので、今年度は12月と6月に2回、花巻クラブとの合同例会を計画しました。12月のスピーチコンテストは会場が盛岡で、全員がスピーカーとなり、元会員の方たちに審査員をお願いして、いつもよりたくさんのお出席者を前に、良い緊張感をもちつつ、楽しく頑張りました。担当のお役も全員で交代で行い、夕食を一緒にして閉会となりました。また6月には東京クラブの佐野千賀子さんをお迎えして「コメント力」を高めるワークショップを花巻の会場で計画中です。こちらも夜の会で、チラシを作りPRに努めています。外部の講師をお迎えして、良い学びの時を期待しています。有職者の会でなかなか人数が増えず、来期は花巻クラブと一緒に活動をと、考えています。ITCの組織で学んだことが生活の中に活かれているので、無理をせずに続けていきたいです。いくつになっても学ぶことを楽しめるとうれしいです。



## 花巻クラブ

及川セイ子



のどかな春がそこまで来ています。ITC-JカウンスルNo.8花巻クラブにおきましては、重複会員含めて6名の会員で行っています。小菅さんに参加していただき、小川さんに参加していただき、まとまった形で毎回進めています、新しい風が入ると物事がうごきます、また、新しい知識が、やり方を学ぶことが多くあります。学ぶことの楽しさがあります。生活の中に学びがあることは、嬉しいことです。会員が一人でもふえることが今の私たちの課題です。資料を使っのプログラムに今更ながらも学びが楽しいです。



## 🌱🌱 会員委員会から 🌱🌱

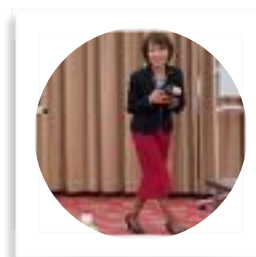
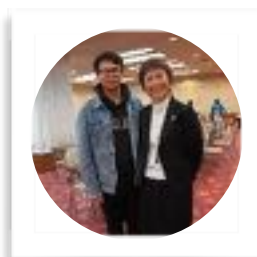
29期会員委員長 永井眞澄



29期会員委員会は永井眞澄委員長と藤原真人委員の2名で行いました。ITCからITC-Jに変わって2年が経ちました。カウンスルNo.8のクラブも会員も減少の今日、会員委員会として今期一番の目標は、会員を増やす事でした。その為に会長はじめ、ウェブサイト・会報委員会にご協力を頂いて、会員委員会が力を入れました名刺代わりに使って頂く「お誘いカード」は各クラブにお渡しする事が出来ました。もう一つの目的「リーフレット」はITC-Jの内容がとても良く判りますので是非入会のお誘いにご活用下さい、これが新入会員に繋がればこの上ない喜びです。「他クラブ訪問」は会合でもお話しましたように、No.8のクラブで色々なプログラムに参加されてメンバーとのコミュニケーションを密になさいますと、より一層のお仲間になれると思います。記録を纏めてみましたが、数字はさておき会員の多い東京クラブが矢張り沢山の方が他クラブを訪問されています。東葛クラブには4クラブの皆さんが訪問されました。また今期の山口会長は精力的に各クラブを回られました事も付け加えさせていただきます。



コーディネーター、コ・コーディネーター、  
お疲れ様でした！



## 🌻🌻 編集後記 🌻🌻



ニューズレター作りは得意ではありませんでしたが、機会を得ることで、アプリケーションの多くの機能を知ることができ、今後に役立てられそうです。原稿を快く引き受けてくださった皆様、そして支えてくださった山口会長、饗場委員長、横浜クラブの会員たち、そして特別にカメラマンを引き受けてくれたユコイさんに心から感謝申し上げます。

斉木ゆかり

ウェブサイト会報委員会 饗場嗣祈子委員長、水野玲子、斉木ゆかり及び横浜クラブ会員